

藤沢市ロボット未来社会推進プロジェクトの中間見直しについての議論・意見の内容

1. 各取組分野の評価

各取組分野の評価内容と、それを踏まえ「ロボット施策庁内連携推進会議」で議論した中間見直しの内容については、次のとおりです。

施策の柱	中間見直し前の取組分野	取組内容	課題・今後の方向性	中間見直しとして
ロボット利活用の推進	(1) 介護労働環境の改善 (介護保険課)	・介護ロボットの導入に係る費用の助成を実施した。 ・市内施設サービス運営法人との意見交換等を実施した。 ・担当課として先進施設視察やセミナーに参加し、情報収集を行った。	・市内施設サービス運営法人との意見交換等を実施する中で、導入後有効に活用されていない事例があることが分かってきた。 ・介護現場職員やマネジメント層のICTリテラシーが低い。 ⇒市がサポートしてICTリテラシーを高めていきたいと考えている。 ・介護ロボットといってもかなりの種類があり、運用方法を網羅的に熟知している人がこの業界に極めて少ない。 ⇒ロボットのアドバイザー人材がいればそういった案内をして有効な運用ができると考える。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、取組分野・事業名等・事業内容を見直す。
	(2) 介護予防・健康増進等 (障がい福祉課・地域包括ケアシステム推進室)	・ロボットスーツ着用訓練助成は、平成30年度を経過措置期間として終了した。(障) ・高齢者施策の一環として、今後増加するであろう認知症を最先端技術のVRを活用して体験する事業を実施した。(地)	・子育て世代等の無関心層への働きかけが難しい。体験者は初老の方といったように認知症への関心が高い人が多い。(地) ・事業を実施して出口づくりが難しいと感じている。(地) ⇒認知症を体験して理解してもらえらるることの手ごたえはあるが、その後どうするかは今後考えていきたい。(地)	・VRを活用した取組を引き続き進めていくため、事業内容に明記する。
	(3) 災害対策の充実 (消防局)	・局内各課でロボット利活用のアイデアを募集した。その結果、水上・水中ドローンに的を絞って実証を進めている。	・検証を行ったが水難救助事案での利活用は、まだ多くの課題がある。 ⇒活動隊員の要望に合わせて、機能強化ができるのか引き続き検証を行っていきたい。 ・あわせて災害時に特化せず、研修・教育・訓練等にVRやAIの技術を利用できるか研究しつつ、防災力向上につなげていきたい。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、取組分野・事業名等・事業内容を見直す。
	(4) オリンピック等における活用 (神奈川県・産業労働課)	・江の島での自動運転バスの実証を実施した。 ・辻堂でのかながわロボタウン推進プロジェクトを実施した。	・県の予算は国の地方創生推進交付金を財源としており、来年度以降は大幅な見直しとなる。 ⇒今後を見据えると、県と市が連携し、普及啓発の推進に注力していくこととなる。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、「施策の柱2 ロボットの普及啓発・人材育成等の推進」の取組分野「普及機会の拡大」へ移行することとし、事業名等・事業内容を見直す。
	(5) 行政サービスでの活用 (産業労働課・IT推進課)	・自動議事録作成ソフトなど様々な実証を進めた。	・スマート藤沢 (スマートシティ・デジタル市役所) に資する取組を進めていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による新たな生活様式にも合う新たなアイデアも取り入れながら進めていきたい。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、新たな取組分野として「社会情勢の変化への対応」を追加する。また、「行政サービスでの活用」については、行政の効率化の視点を追加する。 ・スマート藤沢を推進するにあたり、庁内の人材育成のため最先端技術の情報共有や勉強ができる場が必要であることから、取組分野・事業名等・事業内容への記載は行わないが、新たに「ロボット施策庁内連携推進会議」の役割に位置づける。
ロボットの普及啓発・人材育成等の推進	(6) 普及拠点の活用／普及機会の拡大／次世代人材の育成 (産業労働課)	・ロボテラスを活用し普及啓発事業を行った。 ・ふじさわロボットフォーラムを開催するとともに、ロボットの展示・体験等を行うスペースを設けた。 ・市役所本庁舎及び産業フェスタにおいてロボットの展示・体験を実施した。 ・少年少女ロボットセミナーを開催した。	・今後も(公財)湘南産業振興財団と連携し進めていく。 ・ふじさわロボットフォーラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、実施について検討が必要である。 ・次世代人材の育成としては少年少女ロボットセミナー以外に親子プログラミングセミナーも実施している。今後についても新たな取組を検討していきたい。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、ふじさわロボットフォーラムの記載を削除する。また、引き続きイベント等への出展や様々な子ども向けセミナー等を実施していくため、事業名等・事業内容に明記する。
ロボットの社会実装の推進	(7) 実証実験への支援 (企画政策課・産業労働課)	・ウルトラ見守りチャレンジを実施した。(企) ・慶應大学SFCにおける宅配ロボットなど、複数の企業の実証実験を支援した。(産)	・引き続き、民間との連携を進め実証実験等を実施していきたい。	変更なし
	(8) 先端技術を活用した先導的なまちづくり (産業労働課)	・慶應大学SFC周辺のまちづくりのコンソーシアムへの参加を予定している。 ・コンソーシアムの枠組みにとらわれず、産学官連携に取り組んでいる。	・慶應大学SFC周辺のまちづくりについては、引き続き庁内関係部門と連携し進めていきたい。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、スマート藤沢の実現に向け、幅広く産学官連携を進めていくため、事業名等・事業内容に明記する。
ロボット関連企業への支援	(9) ロボット産業への参入支援／企業集積・産業集積の促進 (産業労働課)	・藤沢ロボット産業研究会は、令和元年度から(公財)湘南産業振興財団を主体の事業とし、回数を拡充した。 ・ロボット産業推進事業補助金の交付を実施した。 ・企業立地に係る税制上の支援措置、及び重点産業立地促進助成金制度を実施したが、ロボット分野に係る事業の申請はなかった。	・補助金については、申請件数が増えていないことに加え、補助から製品化までが困難であることが課題である。 ・企業立地施策では、ロボット関連企業の誘致が進んでいない。 ⇒次期プロジェクトにおける見直しに向け十分な検討が必要である。	・「課題・今後の方向性」を踏まえ、藤沢ロボット産業研究会は拡充を達成しているため「拡充」の記載をとる。中間見直しでは明記しないが、次期プロジェクトに向けロボット関連企業への支援について検討を進める。
	(10) 全般を通して中間見直しに反映した点			・「2 新たなプロジェクトへの見直し」の(1)背景、及び「3 藤沢市ロボット未来社会推進プロジェクトの基本的な考え方」の(3)プロジェクト期間に、新型コロナウイルス感染症の拡大など、今回中間見直しをした背景を記載する。 ・「3 藤沢市ロボット未来社会推進プロジェクトの基本的な考え方」の(4)プロジェクトの位置付けに、今後のスマートシティやデジタル市役所の取組状況に応じ検討することを記載する。 ・その他、改元など軽微な時点修正を行う。

2. 藤沢市ロボット未来社会推進会議等への意見照会

「ロボット施策庁内連携推進会議」で議論した内容について、「藤沢市ロボット未来社会推進会議」及び庁内各課に意見照会を行いました。内容及び対応状況については、次のとおりです。

(1) 藤沢市ロボット未来社会推進会議・・・3件

項目	意見	中間見直しとして
全体を通して	I C TはI C T, ロボットはロボットとして議論するのではなく、両者を一体化したビジョンが必要だと考えます。I o Tにロボティクスを加えたI o R T (Internet of Robotics Things), クラウド情報サービスのエッジ端末としてのロボット, 自動運転車やドローン, マイクロモビリティまで視野に入れた議論をすべきです。	「2 新たなプロジェクトへの見直し」の(1)背景にI o R Tの概念や自動運転, ドローンの記述を追記する。
普及機会の拡大について	ロボテラスや市庁舎において, ロボットに関する見学会やイベントを実施することは市民への認知にもつながりとても良いことだと思います。今後はもっと広く小中学校や公民館等でロボットに関しての広報活動ができると良い。体験することが理解や認知につながりやすいと思います。	ロボテラスでは, 過去に小学校の見学実績がある。今後についてもいただいたご意見を踏まえ小中学校や公民館等とも連携し, 広く普及啓発活動を行っていく。(記載内容の変更はなし)
次世代人材の育成について	人材の育成は重要な課題だと思います。高校や大学と連携し才能ある学生や研究に対しては支援を強化してほしいです。	少年少女ロボットセミナーは, (公財)湘南産業振興財団が主体となり実施しているが, 多くの市内高校生, 大学生の協力を得ることができている。今後も高校や大学との連携を継続し, 財団や市が実施するロボット産業への参入支援につながる好事例が出るよう努めてまいりたいと考える。(記載内容の変更はなし)

(2) 庁内各課・・・5件

項目	意見	中間見直しとして
全体を通して	いつ見直したのかすぐわかるよう見直し時点を記載したほうが良い。また, 策定時点の表現と現時点の表現が混在しているが, 見直し時点での表現に統一しないのか。	プロジェクトに改定時期を追記する。 今回は中間見直しのため, 策定時の表現を極力残すこととする。
「施策の柱1 ロボット利活用の推進」について	障がい福祉課において取組を検討した結果, 「今後, 民間企業等と連携して, A I ・ I C T等を活用した介護ロボット・自助機器等の導入, 相談やモニタリング等へのリモートシステム導入等の検討を行う。」こととした。	「施策の柱1 ロボット利活用の推進」中, 次の2点を修正, 追記する。 ①取組分野「医療・介護予防・健康増進等」の事業名等及び事業内容を修正する。 ②取組分野「社会情勢の変化への対応」の事業内容に「今後, 労働力不足が想定される分野へのロボットの利活用を検討します。」を追記する。
施策の柱1の取組分野「介護現場の生産性向上」の事業内容について	これまでの導入補助からリテラシー向上に修正されているが, 一歩後退に見える。補助の前に, 施設側がそこまで進んでいないので, リテラシーからやり直すということか。	市内施設サービス運営法人との意見交換等を実施する中で, 施設での運用方法や, 介護職員のI C Tリテラシーに課題があり, 導入したロボット等を有効に活用できていない事例がある事がわかった。このことから, 直接的な補助の実施よりも, 実際にロボット等を使用する介護職員のI C Tリテラシー向上が先決課題であると判断したため, 現在の記載となっている。(記載内容の変更はなし)
その他	字句の修正2件	修正する。